

## ■ グループ紹介

# 株式会社 ダイヘン

## 1. 沿革

当社は1919年12月、大阪変圧器(株)として『変圧器の専門製作』を旗印に、柱上変圧器の大量生産を開始しました。1934年には変圧器製造の技術を生かして、わが国でいち早く電気溶接機の生産を開始し、以来変圧器および溶接機分野で業界をリードしております。

また、これまで得意先業界の造船や自動車向けの専用溶接機で蓄積した技術を駆使して、1980年にアーク溶接ロボットの生産を開始しました。このロボット事業は、現在ではアーク溶接分野からハンドリング分野にも進出し、当社の第三の柱にまで成長しております。

このような業容の変化に伴い、1985年12月に社名を(株)ダイヘンに変更して新たなスタートを切るとともにこれまでに培った技術を基盤に、エレクトロニクスやFAなどの新分野へ技術フィールドを拡げ、さまざまな技術に果敢に挑戦しております。

## 2. 会社の概況

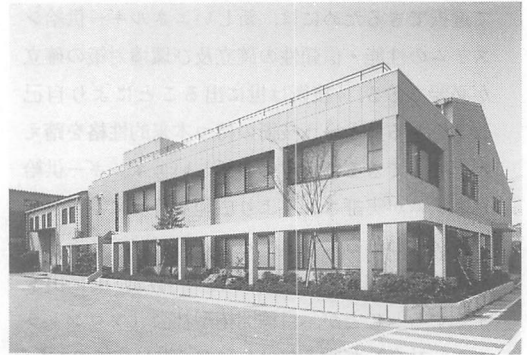
資本金 105億9300万円 (1993年3月末現在)  
 従業員 1839名 (1993年3月末現在)  
 売上高 739億6800万円 (1993年3月決算期)  
 本社 大阪市淀川区田川2-1-11  
 事業所 7支社、6営業所、5工場、2技術センター  
 関係会社 国内17社、海外4社

## 3. 事業内容

当社は各種変圧器、各種溶接機、産業用ロボット等の製造、修理、販売を主な事業とし、その製品の販路は、電力会社をはじめ、機械、造船、自動車、建設、鉄鋼、化学などあらゆる分野にわたっております。

主な営業品目は次のとおりです。

変圧器、受配電設備、開閉器、遮断機、制御通信機器、各種電源装置、溶接機、プラズマ切断機、産業用ロボット、炭酸ガスレーザー加工装置、産業



十三事業所 技術センター

用空気清浄機等

## 4. 研究開発

当社は、お客様の信頼と期待におこたえできる製品をお届けするために、各事業所の研究開発部門が相互に連携を取りながら、お客様や大学の研究機関との共同研究も積極的に行い、技術課題の解決や技術シーズの蓄積と関連製品への応用を進めております。

また、十三事業所(大阪市)と摂津事業所(摂津市)内に研究開発の拠点としてそれぞれ技術センターを有し、新技術の開発と新製品の造出に努めております。最近の主な成果は次のとおりです。

### (1) 電力機器分野

電力会社の配電線地中化のニーズに対応した新しい『コンパクト形地上設置形変圧器』や、無停電工事のための『無停電切替装置』を開発納入し、電力供給の環境調和や信頼性向上のための新製品開発を積極的に進めております。

### (2) 制御・通信分野

配電自動化用制御装置の開発を通じて蓄積した制御通信技術の高度化を図るとともに、自社開発の32ビット制御用コンピュータを応用し、高速、高精度な電力潮流模擬や多彩な事故模擬および訓練支援機能を備えた制御所用訓練シミュレータを開発しました。

## (3) 溶接機分野

平界で初めて溶接機にファジィ制御を応用し、複雑な溶接条件の設定を自動化したパルスMIG自動溶接機を開発すると共に、このファジィ制御機能を応用した炭酸ガスMAG溶接機を開発するなど、溶接の脱技能化ニーズへの対応を一段と強化しております。

## (4) メカトロ分野

FA、とりわけアーク溶接とその周辺作業を含む巾広いシステム化ニーズに対応するため、ポジションナやスライダなどの周辺機器の開発に加え、アークセンサの性能向上やその他センサの研究開発に取り組んでおります。また液晶業界を含め成長が期待される半導体業界のクリーン搬送装置では、超クリーンでスムーズな高速ウエハ搬送が行える3軸クリーンハンドリングロボットを開発しました。

## (5) エレクトロニクス分野

高集積化が進む半導体や大面積化、高密度化が進む

液晶表示装置などの製造工程における次世代プラズマ処理に対応するため、高周波電源、マイクロ波電源および整合器の高機能化を図るとともに、高磁場発生装置等の半導体製造周辺機器の充実に取り組んでおります。また、これまでに培った保有技術をベースに各種特殊電源の開発にも取り組んでおります。

## 5. 最後に

当社は、常に品質至上を最大のテーマに製品づくりを推し進めておりますが、今後とも『信頼と創造』の経営理念のもとに、技術と品質のますますの向上を目指して、一段の飛躍を期したいと考えております。

所在地 〒532 大阪市淀川区田川2-1-11

(文責：配電機器事業部

研究開発部部长 花岡 克己)

## 共催行事ごあんない

## 第32回原子力総合シンポジウム 開催について(案)

と き 1994年2月23日(水) 9:30~18:00

と ころ 学士会館本館(202会議室, 210会議室)

(東京都千代田区神田錦町3-28, ☎03-3292-5931)

**開催趣旨** 原子力関連学協会の共同主催により、21世紀を前にますます広領域化しつつある原子力研究関連の各専門分野の研究者—技術者間および学界—産業界間の知識と情報の交換・普及を図ると共に、単に専門家に対してのみならず、一般社会に対しても、原子力研究の現状、展望を含め、原子力界が直面している問題点を提示し、理解することを目的として本シンポジウムを開催する。

**予稿集** 1月中旬に作成し、頒布する(予価2,000円)

**参加費** 共催学協会会員 2,000円, 学生 1,000円

非会員 3,000円(当日受付)

**運 営** 「原子力総合シンポジウム」運営委員会事務局

〒105 東京都港区新橋1-1-13(東新ビル)

(社)日本原子力学会内 TEL 03-3508-1261, FAX 03-3581-6128